

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300521		
法人名	株式会社ライフサポートNEO		
事業所名	原古賀紀水苑		
所在地	佐賀県鳥栖市原古賀町854番地		
自己評価作成日	平成22年3月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年3月29日	外部評価確定日	平成22年5月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別の対応を重視している。入居者様主体の介護、入居者様の自己決定を尊重します。残存機能を維持して頂ける様支援します。又、地域の方とのコミュニケーションを積極的に図ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅街の一角に位置するグループホームで、落ち着いた感じの木造の施設である。敷地内の南向きの庭には入居者の憩いとリハビリの場を兼ねた花壇と畑が用意され、入居者の残存機能維持の支援体制が整えられている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のカンファ時に理念斉唱し、日々、地域の方々との挨拶等コミュニケーションを大切にしている。	会社の経営理念を大切に唱和すると同時に、ホーム独自の理念をスタッフ全員で考え、「地域に根ざし、毎日笑顔で、安心して過ごして頂ける」を唱和し共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の近隣の溝掃除や、ごみ捨て場所の清掃当番など欠かさず参加している。また、年1回の地域で開催される文化祭など積極的に参加している。	スタッフの数人がごく近所に居住し、協力医も地区内の医院で、入居者は受診の際に住民と交流している。また、町区に区費も支払い、回覧板も回ってくるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を招待した夏祭りを開催し、認知症高齢者を理解して頂くと同時に地域貢献を目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しております。ご意見頂いた点は調整会議にて検討し、実践に繋げている。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催しており、記録もきちんとファイルしている。参加者は家族、管理者、スタッフで実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	広域など行政へ定期的に足を運び、問題解決に向け、積極的に取り組んでいる。	運営推進会議には日程・時間調整の関係で行政からの出席がなかなか得られないが、広域連合の事務所には介護度等の変更代理申請などで出掛ける機会も多く、協力関係は築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に日中の施錠はせず、入居者様が自由に出入り出来る環境を作っている。また、拘束については自施設勉強会にも取り上げ、拘束のないケアを実施している。	身体拘束の事例はない。入居者にその必要が出てきた場合にも、身体拘束の弊害についてスタッフは正しく理解しており、家族を交えての支援の体制も整えられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても自施設勉強会に取り上げ、虐待防止に取り組んでいる。またご家族様については推進会議を通して、虐待に至るまでの経緯等お話ししている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度における外部での研修に積極的に参加し、職員へ流し込みしている。また、ご家族様へも案内及び相談、関係者とのパイプを構成している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約を結ぶ時点で、ご家族様が十分な納得を頂けるようご説明している。また、改定に伴い再契約を頂く際も同様に十分にご理解を頂ける様勤めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、入居者様を支援させて頂いている中で、常に耳を傾け、要望があった際は会議に取り上げ、実践出来る様勤めている。またご家族様からの要望も同様であり、要望など実現できるよう努めている。	玄関には「意見箱」が備えられ、面会に来られた家族とも担当スタッフが中心となってコミュニケーションを密にしている。運営推進会議で出された意見・希望も運営に活かされるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、要望の吸い上げは大切にしており、管理者が職員との面談の場を設け、会社への意見などは管理者より会社へ伝えている。	スタッフとのコミュニケーションにも特に配慮している。月1回の定例会議でスタッフには十分に意見等を出して頂き、年に2～3回は代表者との懇談も実施され、働きやすい職場になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より代表者へ職員の勤務状態など定期的に報告をおこなっている。また、代表者より直接職員との意見交換を大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社独自に資格取得支援制度を導入し、職員個々スキルアップと自己研鑽できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鳥栖地区のGH連絡協議会に入り、開催される研修会など積極的に参加し意見交換など行い、他事業所との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至る前に直接ご本人様と面接を行い、意見要望を収集し、アセスメントをとり、入居後、安心して過ごして頂ける様勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様は勿論ですが、ご家族様の負担を軽減できるよう積極的に働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接の際、介護保険外でのサービスや必要に応じたその他のサービスなど情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様個々のレベルに応じた食事準備、片付けなどお手伝い頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は少しでも長く入居者様と過ごして頂ける様支援している。また、職員が間に入り、現在の状況及び今後の対応など随時相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にご本人の馴染みのものがあればご持参頂く様お話している。	入居者の約半数は地元からの入居であり、昔からの知人の面会もあり、病院への受診の折にも交流がある。遠方からの入居者にも家族の協力も得て、交流が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自分のペースを尊重しているが、孤立しないよう入居者皆様が関わりあえるようレクリエーションの企画や苑での雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院に伴い、退去された方についても定期的面会し、ご家族様の不安を軽減できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々、ケアをさせて頂いている中で、入居者様に耳を傾け、何気ない会話を大切にし、希望があった際は調整会議にて検討し、実践できる内容であればご家族様から了解頂き実践出来る様努めている。	スタッフと入居者とが日中ゆっくり触れ合う時間も十分とれている。又、入浴介助時や整容・着替えの支援時にも入居者の思い・希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族様より情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々ケアをさせて頂く中で、入居者様個々の状態を常に観察し、記録に残すよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントシートを作成し、担当者から職員全員で記入し、ご家族のご意見要望を記入頂き、調整会議に担当者会議を開催しCMが作成。	入居時には管理者、看護師、関係スタッフが家族・入居者と面談しアセスメントシートを作成して1~2週間後を目標に担当スタッフを交えて介護計画を作成する。6ヶ月毎、随時見直し時も入居者・家族、関係スタッフで話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録へ詳細を記録し、次月の調整会議時に検討しケアプラン見直しへ繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険以外で利用できるサービスの利用及び情報提供など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り開催の際は地域の方々のボランティアで参加して頂いたり、地域の行事(文化祭、運動会など)見学に行っている。また、地域住民の職員がいる為、地域の情報収集が円滑に出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に協力医療機関を利用しているが、状況に応じた病院の選択、受診及びご家族様が希望される病院がある際は、手配する等努めている。	入居時に協力医以外のかかりつけ医の受診が必要な時は家族と共に支援している。入居されて数年経った現在でもかかりつけ医への受診を希望される入居者もあり、支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化に伴い随時、看護師及び管理者に相談し、ご家族様へ受診を促している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されている際は定期的に訪問し、担当看護師及びDr.SWと情報交換をしている。入院されていない場合も同様に定期的訪問しSWと情報交換を積極的に実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約を結ぶ時点で、ターミナルについてのご説明及び方針についてご説明している。また定期的にご家族様へターミナルの意向を確認している。	入居契約時に「重度化や終末期に向けた方針」を文書化して説明し、同意を得ている。入居者が重度化した場合等には早い段階から家族・協力医の協力を得ながらスタッフで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回に消防署員及び救急隊員立会いで救命講習や応急手当の研修を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いで年1回の避難訓練、自主訓練を実施している。	年1回の消防署立会いで避難訓練を実施し、年に数回消火訓練等を行い、消防署の協力を得て総合救命訓練をホーム独自で実施している。	夜間等職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、地域住民の参加協力を得た訓練の実施も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格の尊重を重視してる。また自己決定を最大限に尊重している。	入居者への対応、入居者への言葉かけ、あるいは誘導等でもスタッフは入居者の人格、プライバシーを損ねないよう十分に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いを伝えて頂ける様、個別ケアを大切にし、思いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様お尊重を重視してる。また自己決定を最大限に尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際など、自己選択できる方については入居者様と一緒に洋服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に出来る範囲でのお手伝い頂き、共同で配膳、片付けを行っている。	和やかな食事のひと時になっている。食事の準備、配膳、下膳等も入居者で出来る方にはお手伝いを頂き、食卓ではスタッフ共々美味しくいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりの食事量など考慮し、摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は極力自力にて口腔ケアして頂き、その後一部支援を行っている。また、夜間は義歯を水保管している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失敗を減らすため、定期トイレご案内を実施している。	排泄チェック表を用いて入居者が失敗しないようにパターンに応じて誘導し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力食物繊維を多く含む食物を提供させて頂いている。また、食事は消化に良い様に工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に2日に1回入浴されているが、家族及びご本人が希望される方については毎日入浴頂いている。	基本的には最低週3回の入浴は守るようにし、入浴が体調等により出来ないときには、個別に足浴、清拭等で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣を尊重し、ご本人が休みたい時に休んで頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が変更の際など、随時変更内容など詳細を申し送りノートへ記載し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が得意なもの、興味があるものなどご本人及びご家族様より情報を収集し、趣味など興味があるものに積極的に取り組んで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的に毎月外出計画を立てているが、苑での対応が困難な場合はご家族様へ協力を頂くようお話している。	日常的な散歩等の外出は日課として取り入れるようにしている。外出が苦手な入居者には食材の買い出しやおやつの買い物等で、出来るだけ外出の機会ができるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様個々の個人財布を管理しており、希望があれば買い物へいく等支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀はがきなど、毎年ご家族様宛へ一言記入頂いている。また、本人希望があれば便箋など準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わっていただくよう、時期に応じた装飾を施している。	室内は広くはないがダイニングから廊下の導線上にも適度に椅子等も配置され、又、音や光線もほどよいものであり、居心地よく過ごせるように工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分のペースを尊重しているが、孤立しないよう入居者皆様が関わりあえるようレクリエーションの企画や苑での雰囲気作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご本人の馴染みのものがあればご持参頂く様お話をしている。	ホームから用意されたベッドと衣類収納ボックスが備えられ、居室にはテーブルを備えたり家族の写真が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を念頭におき、基本的に出来ることはご自分でいて頂き、出来ない部分を支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない